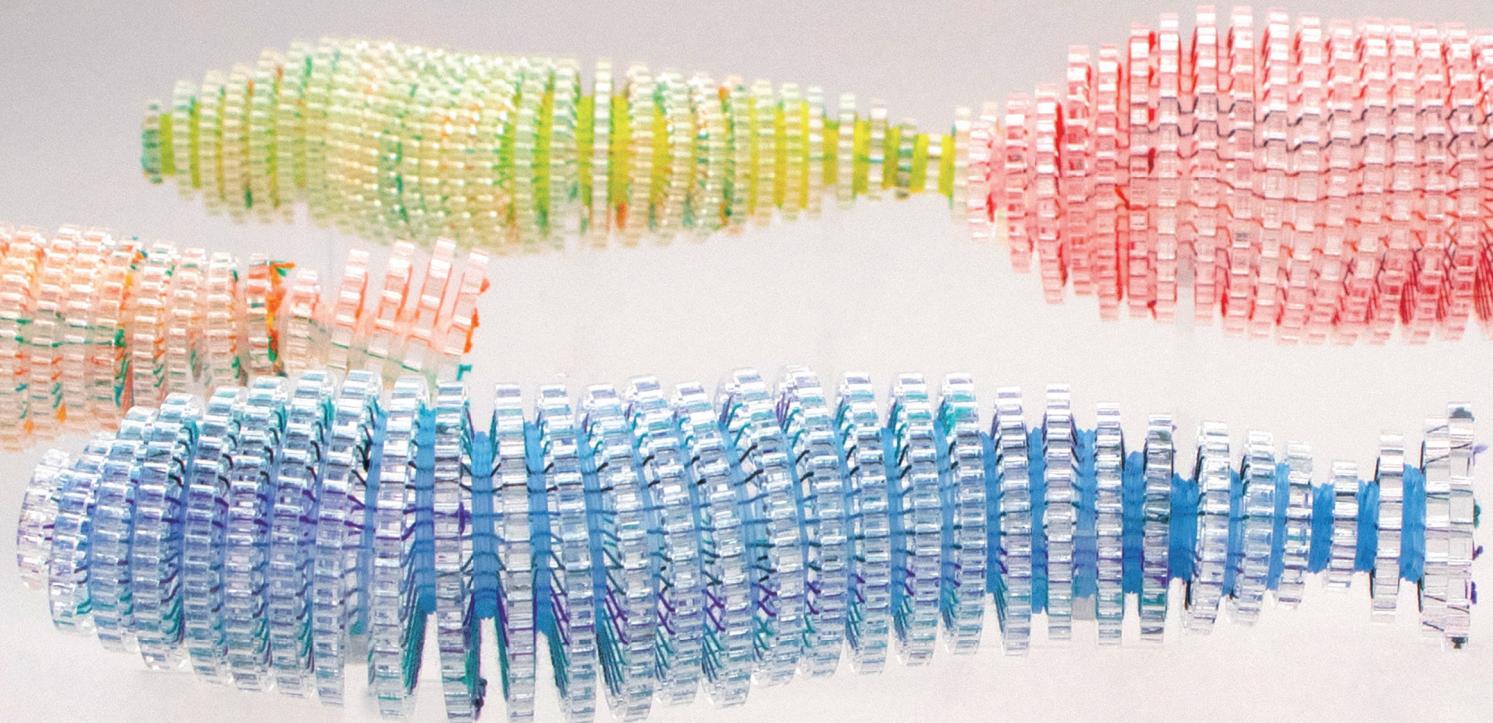


蛇腹構造の研究

Research on Bellows Structure

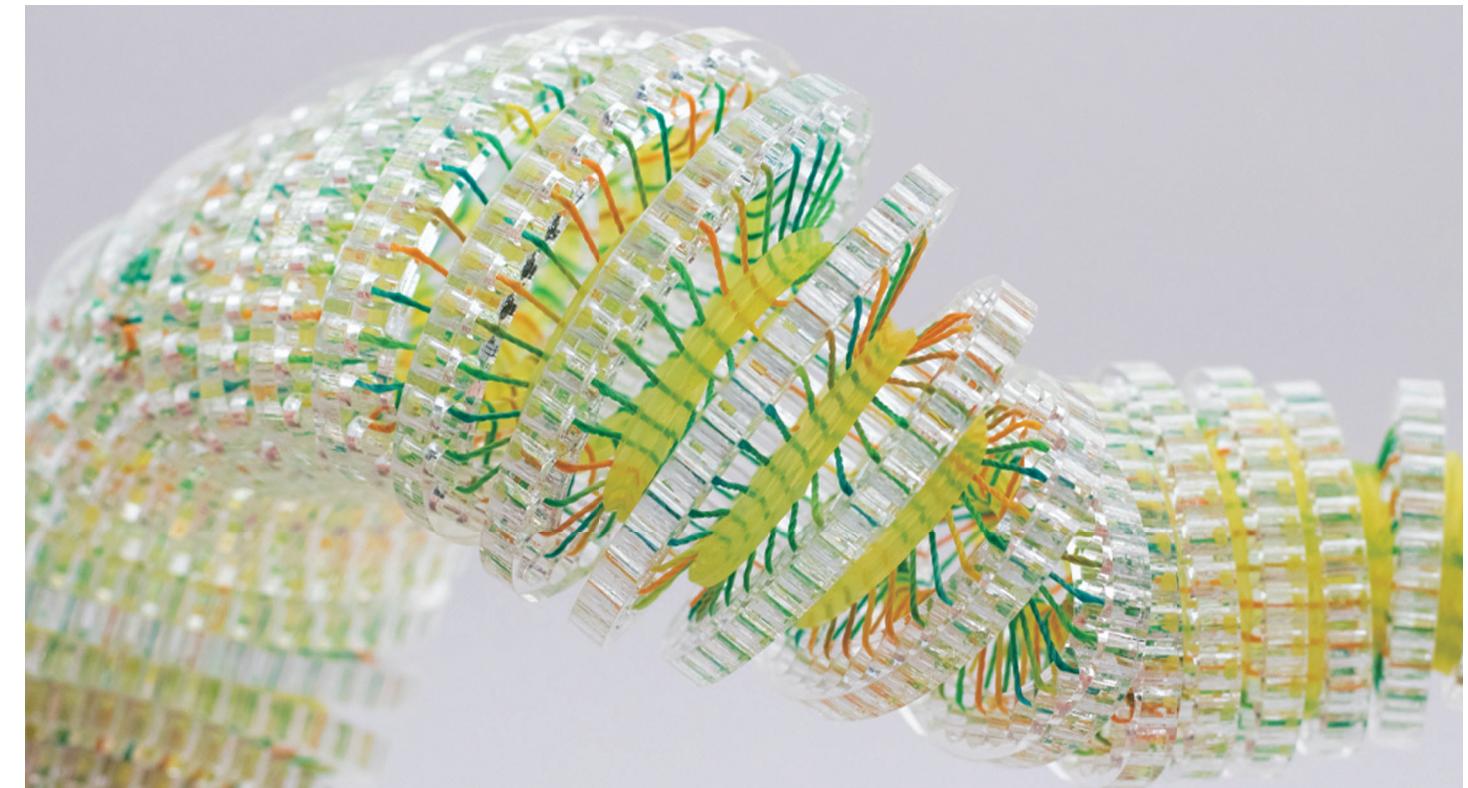


水府提灯の丈夫な蛇腹構造を応用する

水府提灯に使用されている丈夫な蛇腹構造に着目。糸の繊細な美しさと伸縮の面白さを活かした新しい構造を提案。アクリルの輝きが魚の鱗の輝きに、動きは魚類の遊泳する姿にリンクしていると感じ、サカナの形を与えた。

An Application of Durable Bellows Structure for Suifu Lanterns

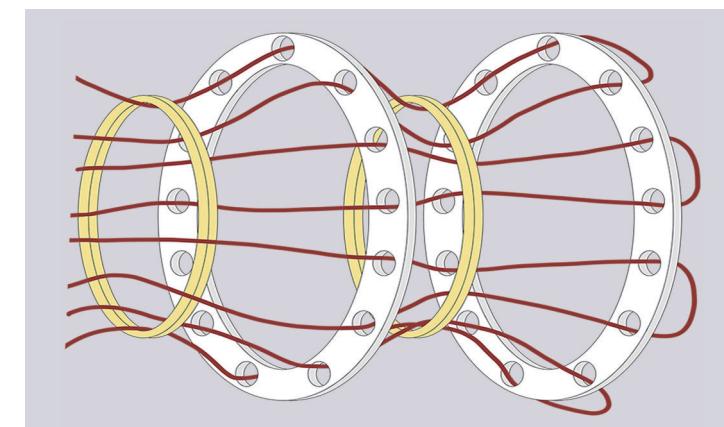
In this project, I focus on the durable bellows structure used in making the traditional suifu paper lanterns. My proposal is a new structure that features the fun aspect of expansion and contraction and the fibers' delicate beauty. Shiny acrylic reminds me of glistening fish scales, so I shaped my work as a fish. When it moves, it resembles a fish swimming in the water.



制作の原点となったのは「水府提灯」の丈夫な構造である。

「水府」とは水戸の別称。江戸時代、水戸藩の下級武士が生活を支えるため励んだ提灯作りが「水府提燈」の発祥と言われ、次第に水戸藩の奨励産業となり、江戸の町などで多く用いられた。

「水府提燈」の特徴は堅牢そして、質実剛健。竹ひごを螺旋状に巻き上げ、外形を整える製法を探っている「岐阜提燈」と「八女提燈」に対し、「水府提燈」は、竹ひご一本一本を輪にして、それに糸を絡めていく製法を採るためとても丈夫な構造が特徴である。



水府提灯の製造過程の中の、竹と糸のラインの美しさに着目した。切り出したアクリルの穴に、強度のあるボタン糸を一本ずつ丁寧に手作業で通し、隙間にシリコン製の輪ゴムを挟むことで伸縮と動きによる面白さを発見した。

手軽に手にとってもらえるように、サカナという具体的な形を与えた。アクリルの輝きはサカナの鱗の輝きに見立て、糸の色味を一本一本変える事で全体に深みを与えられるように制作した。